

平成29年5月1日

各位

本田尚士氏追悼集 出版発起人
代表 中山 輝也

本田尚士氏の追悼集への参画のお願い

拝啓 春の候、皆様にはご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

私共技術士の先輩でもあり、公私ともに親しくさせていただいた本田尚士さん(化学部門)が3月14日に89歳で亡くなりました。あらためてここでご冥福をお祈り申し上げる次第です。

みなさまご存知のとおり、生前の本田さんは技術士会では理事・副会長や政策委員会・日韓技術士国際会議委員会など多くの委員会で委員長を務められたほか、技術士会以外でも技術士審議会専門委員、(一社)コンサルティンエンジニア協会(AJCE)理事等を歴任され華々しい活躍をされました。中でも、昭和58年の技術士法改正や、わが国の技術支援の一環としての韓国への技術支援に情熱を捧げられたことは鮮明な記憶となっています。

さて、本田さんとお付き合いのあった技術士のみなさんから追悼集作成の提案があり、みなさまにはかりましたところ多くの方々のご賛同をいただきました。

つきましては、ご多用中とは存じますが追悼集へのご参画をお願い申し上げます。

敬 具

なお、様式はおおむね下記のとおりです。

追悼集の概要

表 題:「追悼集 一本田尚士さんを偲んで」(仮 題)

ページ数:200~250頁(予定)

原稿字数:1,500字, 写真を含む

構 成:横書きとする

原稿締切:平成29年8月末日

参画費用:大変僭越ではありますがご参画の方は5000円をご負担お願い致します。

発行予定:平成29年10月, 参画者に送付いたします。

編集について

本田尚士氏は各方面でご活躍され、偉大なるご功績を残されました。ご参考までに、本田先生の略歴を同封しました。参照願います。

- ・限られた紙面で全分野を網羅することは困難と思いますので、ある程度類似のテーマ別に編集したいと考えます。
- ・仕分けにつきましては出版世話人にご一任願います。

出版世話人：代表 中山 輝也 株式会社キタック 代表取締役会長
(順不同) 橋本 義平 (有)シスブレイン 代表取締役
佐藤 国仁 (有)佐藤R&D 代表取締役
平野 輝美 創造工学研究所 所長技術士
清水 隆男 創造工学研究所 副所長技術士
西角井 造 創造工学研究所 所員技術士
片上 裕紀 創造工学研究所 所員技術士

(事務局) 渥美 純一 (公社)日本技術士会

ご参画いただくことに同意いただきました方は、事務局もしくは創造工学研究所平野(info@ce-hirano.com)までご一報いただきたくお願い致します。

今後の予定、ご参画費用の振込み、書式などにつきまして決まり次第ご連絡をさせていただきます。

また、ご参画者につきまして紹介をいただきたくお願い致します。できるだけたくさんの方にご参画いただきたく、宜しく御願致します。

その他:お問合せがある場合は、

事務局・渥美純一 ☎03-3459-1331, メールアドレス:jatsumi@engineer.or.jp
創造工学研究所, 平野輝美, ☎090-3694-7864, info@ce-hirano.com

以 上

本田尚士(ほんだなおし)

現住所: ☎899-4332 鹿児島県霧島市国分中央4-21-7

現職: 創造工学研究所 顧問技術士

鹿児島県出身, 昭和3年9月25日生

昭和3年 新潟県高田市に生まれる

昭和16年 鹿児島県立第一鹿児島中学校入校

昭和17年 東京陸軍幼年学校入校

昭和20年 陸軍豫科士官学校入校

昭和20年8月 敗戦により復員

昭和27年 早稲田大学第一理工学部応用化学科卒業

昭和27年～29年 萬座硫黄株式会社製錬課勤務

昭和29年～30年 東京大学生産技術研究所技術研究生

昭和30年～36年 早稲田大学理工学部応用化学科副手・助手

昭和34年～37年 三晃工業株式会社取締役技術部長

昭和38年 本田化工設計事務所開設

昭和39年 技術士登録2878号(化学部門)

昭和49年 労働安全コンサルタント登録(化9号)

昭和56年 創造工学研究所と改組

平成29年 永眠(89歳)

○ 本田尚士の主な研究論文(2002年3月22日現在)

- ・並流充填管中の気液-接触に付いて, 城塚, 荻村, 本田: 早大大学院工学研究彙報第4号30(1955)
- ・脈動充填抽出塔における脈動の作用機構について, 城塚, 本田, 他: 化学工学, 21, 645(1957)
- ・円管内壁より脈動流中への物質・熱及び運動量移動の相関性について, 城塚, 本田, 他: 化学工学, 21, 638(1957)
- ・脈動抽出塔設計法に関する最近の研究について, 本田: 早稲田応用化学会報, 65, (1957)
- ・多孔質炭素隔膜によるガス拡散分離塔の温度効果について, 城塚, 本田他: 化学工学, 22, 29(1958)
- ・V.L.空気酸化による無水マレイン酸製造法に関する研究, 城塚, 本田: 早稲田大学理工学研究報告第7輯, 31(1958)
- ・ベンゼンの空気酸化による無水マレイン酸製造用流動触媒反応装置について, 城塚, 本田: 早稲田大学理工学研究報告第10輯, 3(1958)
- ・脈動抽出塔の抽出及び流動特性について, 城塚, 本田, 他: 化学工学, 11, 6876(1958)
- ・脈動抽出塔による安水中の石炭酸の抽出について, 城塚, 本田, 他: 化学工学, 22, 97(1958)
- ・充填層粒子より脈動流中への物質移動について, 城塚, 本田, 他: 化学工学, 22, 2(1958)
- ・抽出塔の特性と設計法に関する最近の研究, 本田: 化学工学, 22, 59(1958)
- ・熔融塩及び液体金属による抽出, 本田: 化学工学, 23, 271(1959)
- ・抽出関係特許について, 本田: 化学工学, 35, 629(1971)
- ・無水弗酸の製造法と製造装置, 本田: 化学工学, 36, 49(1972)
- ・遊離酵素を水相中に保持する連続式脈動抽出塔型バイオルアクターによるアスパルテーム前駆体合成, 平田, 古沢, 本田: 化学工学論文集, 17, 586(1991)

○ TAの研究並びにTAの普及啓発に協力

(社)日本技術士会TA委員長

当時テクノロジーアセスメントの導入期であり、通商産業省の委託により(財)日本産業技術振興協会

が民間のTAの普及啓発を行っていた。日本技術士会の有志は之に協力するために、委員会を組織して、調査研究を行った。この委員長を務めた。

(財)日本産業技術振興協会のTA研究並びに普及啓発活動に協力

- ・昭和52年1月刊行の「TAの演習」編集担当者として参画
- ・昭和54年3月「コルゲートパイプの利用に関するTA」報告に予測部会委員として参画
- ・昭和55年3月「ファインセラミックスに関するTA」報告に派遣研究員として参画(委員長斎藤進六東工大学長)
- ・昭和55年3月「TAガイドブック」刊行に編集主査として参画
- ・昭和56年3月「太陽熱利用による淡水化に関するTA」報告に作業部会委員として参画(委員長城塚正早大教授)
- ・昭和58年3月「センサ技術の発展と応用分野の拡大に関するTA」報告に協力者として参画(委員長小林彬東工大教授)

○ (社)日本技術士会と(社)韓国技術士会の技術交流に尽力

第1回の訪韓団の派遣に伴い今後毎年日韓両国で交互に交流会議を開催して、技術的な問題解決に協力する事に合意した。爾来本年の第33回日韓技術士会議まで、継続して技術交流が続いている。

昭和46年10月開催の第1回日韓技術士会議以来平成14年迄日韓技術士会議に20回参加

- ・その間第5回・第23回訪韓団長として韓国訪問
- ・平成元年6月日韓産業構造技術調査研究委員会副委員長
- ・平成5年10月大田大会において(社)韓国技術士会より多年の貢献に対し感謝牌を贈呈される
- ・平成7年(社)韓国技術士会の30周年記念行事に訪韓、(社)日本技術士会の祝辞を贈呈
- ・平成11年5月13年6月日韓産業構造技術調査研究委員会委員長

○ 製造物責任問題の調査研究並びに製造物責任の普及啓発に尽力

製造物責任法の制定に関する朝野の機運の情勢に伴い日本技術士会としてもこれに対応して、調査研究を開始すべく、委員会を設置した。法律の公布施行に伴い、委員会を解散し、プロジェクトチームを設置して業務活動を開始した。

- ・平成3年9月(社)日本技術士会製造物責任調査研究委員会委員長
- ・平成5年5月調査研究の成果を「製造物責任(PL)実用便覧」として刊行同書の監修者
- ・平成6年6月製造物責任製造物責任法施行に伴い調査研究を終了委員会を解散
- ・平成6年9月中小企業事業団のテキスト「中小企業製品安全対策講習会テキスト」製作に協力
- ・平成7年～8年同事業団のPL講習会に講師として協力
- ・平成7年1月(社)日本技術士会プロジェクトチーム製造物責任技術相談センター設立代表幹事
- ・損害保険業界に(社)日本技術士会の製造物責任の技術を周知させて爾後の業務開拓に貢献

○ 中小企業事業団の中小企業の省エネルギー診断事業に協力

省エネルギーの必要性が高まるに伴い中小企業事業団の診断業務が増加してきたので、この要請に対応すべく、プロジェクトチームを編成した。

- ・平成5年3月(社)日本技術士会プロジェクトチームエネルギー管理士グループ設立代表幹事
- ・各地の診断業務にグループ員派遣

○ 技術士補の育成に尽力

技術士法改正による技術士第一次試験の実施に伴い合格者の第二次試験に対する支援については、民間の企業による有償事業が増加したが、技術士後継者養成は先輩技術士の責務と考えて、無償の奉仕を開始した。

- ・平成4年6月(社)日本技術士会技術士補対策委員会委員長
- ・平成4年5月創造工学研究所内に技術士補の支援組織を開設(毎月研究会無償開催会員10数名)し、以降継続している。なお、現在も創造工学研究会として継続して開催している。
- ・平成12年八角克夫(化学部門)、2次試験合格
- ・平成14年田利江一郎(化学部門)、2次試験合格

○ セコム科学技術振興財団の助成研究受領

セコム化学技術振興財団の助成に対応すべく安全・衛生関連の調査研究を企図し、これを実行した。

- ・平成5年「労働災害防止のための安全・衛生診断エキスパートシステムの構築に関する基礎的調査研究」
- ・平成10年「製品安全に関わる製造物責任の責任分担に関する研究-階層別重み付けスコア法の適用-」

○ 技術士関連の著作物

技術士経歴25周年に当り、之を集大成して「技術士への誘い」を上梓した。

- ・平成元年11月「技術士への誘い」
- ・昭和53年6月「技術士ガイドブック」
- ・平成5年9月「ボランティア活動のいざない」
- ・平成4年4月「生活と環境」(共著)
- ・平成2年1月「検査の自動化・システム化ハンドブック」(編集委員)
- ・平成5年5月「製造物責任(PL)実用便覧」(監修)
- ・平成11年12月「環境圏の新しい燃焼工学」(監修)
- ・平成21年9月「配慮の時代から共鳴の時代へ」
- ・平成23年12月「技術者の自由業 技術士人生」株式会社三恵社
- ・平成25年5月「日本のエネルギー問題の考察」株式会社三恵社
- ・平成25年7月「陸軍幼年学校の青少年教育」(編著)展転社

○ 海外業務

主務官庁の要請に応じて、開発途上国の技術開発に協力した。

- ・昭和52年10月～11月スリランカの化学工場の技術指導(JODC より派遣)
- ・昭和54年12月～56年10月バングラディッシュ政府研究機関と共同研究(科学技術庁ASCA計画により派遣)
- ・平成63年10月～11月アルゼンチン国の省エネルギー診断・調査(JICA委託省エネルギーセンターより派遣)

○ 技術者倫理の確立に尽力

技術者倫理の確立に対する内外の潮流に応えるべく、日本技術士会の倫理問題の提唱に協力した。

- ・平成12年2月「技術士としての資質：人間的魅力・創造性・倫理観(人間形成における倫理教育)について講演
- ・平成12年度文部科学省委託「科学技術に係るモラルに関する調査」研究委員会委員

○ 学校教育における技術者養成に尽力

各学校の要請に応じて、学生の養成に協力して講義を受け持った。

- ・昭和30年4月～36年12月早稲田大学第1理工学部副手・助手
- ・昭和34年4月～37年3月芝浦工業大学非常勤講師(実験計画法担当)
- ・昭和44年4月～58年3月宇都宮大学工学部非常勤講師(熱・物質移動操作担当)
- ・昭和55年4月～平成10年3月東京農業大学醸造学科非常勤講師(化学機械・化学工学担当)
- ・昭和55年4月～平成10年3月東京農業大学短大醸造科非常勤講師(食品生産管理学担当)
- ・平成3年9月から12年9月豊田短期大学(桜花学園大学)教授(非常勤)(ボランティア活動論担当)
- ・平成4年4月～10年3月東京農業大学短大栄養学科非常勤講師(ボランティア活動論担当)

以上